基調報告

「福島の震災と復興」

懸　田　弘　訓（福島県文化財保護審議会副会長）

これからですね，一時間，福島県の話なんですけども，どのような震災，どのように被災したか，どのように復興したか具体的に資料をご覧になって頂きながら，お話したいんですが，写真が108枚でございまして，この時間帯で言えば１枚25秒で進まなくてはいけないんですね。念のため，写真を後でもう一度見たいという方は，福島大学の鈴木裕美子先生のところに残しておきますので，ぜひこの画像を借りて自由にお使い頂いて結構です。

実は，震災の年の３月11日ですね，福島県はですね完全に時計が止まりましてね，連休明けになって，ようやく動き出しました。私はですね，かつて集中的に，浜通りですね，ほぼくまなく回りました。随分多くの方の話を聞いたり，資料を収録したりして，その半分ぐらいは震災でできなくなりましてね，私にとってはかけがえのない財産になったんで，そのお世話になった関係でですね，震災の直後，動けるようになってから，５月２日からなんですけども，すぐに浜通りに行きまして，かつてお世話になった方を訪ねたり，ほとんどは行方不明だったんですが自分の自費で，ずっと歩きました。入れるとこは，全部歩きました。

文化庁の事業が始まったのは，年が明けてからでした。前の年の５月から，個人的にですね，最初からやっていたにもかかわらず，とんでもない批判を頂きました。懸田のやつは，調査を独占して誰にもやらせないとかね，邪魔してるとかですね，とんでもないこと言われたんですよ。悔しかったらやってみろとか，言いたくなるんですけど。しかし，無理やりにでも頑張りました。今日写真をお見せしますけれども，108枚のその中で，他から借りたのは僅か３枚です。ほかは全部，自分の足で撮ったものです。私は自分で見たもの以外は書いたり，喋ったりしないことにしています。余所の人が書いたものを勿論参考に読むことはありますけども。それを元にして書くということは，しておりません。今回も，自分で見たものだけを話させてもらっているんですけどね。

それで，今日は何を申し上げたいかと言いますと，一つはですね，震災後思った以上の芸能が復活いたしました。50弱ですね。その原動力はなんだったのかということをお話したいんですね。二つ目ですね，震災後ですね，新たな動きが出てまいりました。そのことを紹介します。今後，どういう課題が考えられるか。そしてね，改めて民俗芸能とは何なのかの意義を，我々問いたいんですね。そして，我々研究者の役割は何なのか，考えたいんですね。今回の震災で，もっとも役に立たなかったのはある宗教者と民俗研究者といわれています。震災後，全然来てくれない。民俗芸能研究者は，研究だけして資料だけ頂いて，お返しするということをやっていない，という批判まで出ました。私も，民俗芸能の研究者の一人として，このことを凄く反省しています。

震災前からですね，これらの事が懸案となっておりました。何かと言いますけどね，信仰が薄れてきた。なくなりはしないです。薄れてきてます。青年会は，ほとんど解体しました。少子高齢化ですね。かつては，芸能の担い手は青年会でしたが，消防団に任されたこともあります。若者の趣味が多様化しましてね，なかなか一つのことに食いついてくれない。土曜だから日曜だからって来てもらえることが難しくなりました。それから，指導者の高齢化も進みまして，しかも自信が喪失しています。権威も低下しました。私はですね，師匠さんが「なにやってんだお前こら，明日から来なくていい！」といわれても昔はそれでも来たんですよ。今，こんなこと言ったら絶対来ませんからね。待ってましたとばかり。そういう状況になってしまったんですね。

それから，もう一つ，共同体としてのですね，意識の低下です。私一人ぐらいいなくてもなんとはかなるだろうと。それから農家というのは，兼業が多くなりましたから。昔の農休日というのは，今の休日より多かったんです。しかし，ほとんど今はですね，休めなくなりましてね。こういう事が，震災前から懸念されていたんです。

それがですね，想定外の地震，津波そして，原発事故。それが一気にまさに津波のように押し寄せてきたんです。これは，新聞でも報道されていますからあえて申し上げなくてもいいんですが。今回の震災で，3790人の方が亡くなりました。いまでも３人の方が行方不明です。それから全半壊，半壊と言っても全壊に近いものですが10万戸。それで，もう一つ東京電力の原発事故。放射能汚染ですね。そのために，県内外へ今なお非難しています。今年６月現在で，古い資料で恐縮ですが，

10万人の方がまだ故郷を離れています。そのために民俗芸能は中断，廃絶の危機ということになりますね。それから，一番困ったのが風評被害です。ある，国の機関の研究者である方が，福島県民は結婚すべきではないとかお言いになりましてね，話題になりましたね。非常に残念でしたね。私達はね，何を信用していいのか分からないんですよ。政府の方ではこんな程度なら心配ないって言ったりね。だから浜通りだけではないです。福島の人が，随分大阪とか広島に避難していますよ。そのために孤独死。自殺がですね，岩手，宮城の２倍から３倍ですよ。今なお，増えております。

それで，民俗芸能はどうかと言いますとね，震災直前に調査したんですけどね，約800団体ありました。その内ですね，浜通りがね，約430団体ありましたね。震災後，調査しましてね。避難しましたから，所在地が確認できたのは約700団体です。その内ですね，浜通りが350ぐらいあるんです。その内ですね，アンケート調査した結果６割がね，平常にできたんですが，残りの４割はアンケートが取れなかったんですね。

この写真，ちょっと見て下さい。神楽，獅子神楽です，これ。ここがね，今回の放射能の被害の甚大な所です。それから，緑でちょっと潰してありますが津波の被害がある所です。県内の，太神楽系の獅子神楽は，約250ぐらいあるんですけども。その内の170が，この相馬の旧中村藩地区にあるんですよ。それがですね，これ放射能で避難した所です。こんなにダメージを負いました。実に図りしれないですね，これ。

それから，田植えの時です。これ，東北地方にしかない芸能なものですから，関東，関西の方は馴染みがないと思いますけど。凶作に見舞われた福島県，東北にとってはね，もっとも心の拠り所になる芸能なんです。それが，会津の方で200カ所，320年ぐらい前からやっていましてね，200年ぐらい前から踊りになって，それからこちらに，飯館村，昨日申し上げたんですがここでは18カ所。それから，浜通りの方ではですね，海岸の方に通過していったんですね。それでね，これが全部で「田植踊」，この枠はねちょっと別な系統なんですが，「平鍬踊」です。「田植踊」とは別な系統なんですが，あるいは「早乙女踊」っていうんですが，全部で120ぐらいあるんですよ。その内の70ぐらいがですね，昔の相馬中村藩，今回被害受けたとこなんです。この芸能は，後で話しますけど海岸沿いに行けば行くほどですね，磨き上げられる，洗練されて美しくなるんですね。これが，数だけじゃなくて，質の面も非常に大きいですね。実際にですね，被災者の所を見て回ってこれ，復活した例をご紹介します。何故，復活できたかというと，普通に考えていきたいと思うんですが。原釜だったらこの辺です。海水浴の海だったんですが，419戸ありました。その内にですね，1250人住んでらっしゃったんですが，99名なくなってます。津波でですね。どうなったかというと，丁度震災のですね，２週間前。ちょうど調査行ってたんです。で，もう少し早かったらですね，私はこの世にはいなかったですね。今日お会いすることはなかったと思います。非常に元気良くですね，旦那さんが魚を獲ってくると奥さんがそれを取って，競りにかけてですね。で，これが震災でこうなりました。これ，震災後最初に行った５月２日の写真です。漁船なんて，漁業協同組合の競りをここでやるんですが，それにのっかっていますね。ここではですね，津神社って大変漁師の信仰の厚い神社なんですが。ここもですね，震災の前の年の４月，お祭りを見に行ってたんです。丁度。老若男女，全部参加してですね，まるまる一日がかりで芸能を公開するお祭りなんですね。これ，神楽なんですけども。この木を見て下さい。この公園なんです。こんなに木があったんですが。ここで，ですね。この木があるとこですね，幼稚園から小学生です。中学生，大人全部次々とね，３時間ぐらい芸能を披露します。これがこんなことになりました。今やった場所はですね，この辺です。こちら側には全く木がないです。で，瓦礫をですね，亡

松川浦漁港　2011. 2. 27

松川浦漁港　2011. 5. 2

くなった方をね救い出す為に，泥だけを取るわけなんですが。これらがそのままなんです。で，この方，震災の翌年なんですけど。前も申し上げましたが，鈴木マコトさんとおっしゃるんです。この方は，奥さんの手を引いて避難しようとしてですね，駆け上がればいいなと，神社であと２メートル，残り２メートルのところで助かったんですけど。その２メートルの所に竹藪があったんです。そこに逃げ込みましたね。そこまで津波が来まして，奥さんは竹の下敷きになって，手を繋いだまま奥さんを失くしました。娘がいて，相馬市内にいたんですがスーパーに勤めていました。両親のことを助けなきゃと，車で海岸まで来る途中に，津波に正面衝突しまして，瓦礫の下になって一週間後見つかりました。おそらく即死状態だったんでしょうね。

しかしですよ，次の年ちゃんと芸能をやったんです。この方には，すぐまたお会い出来なくてですね，半年過ぎてからお会いしたんですが，言葉なかったです。言葉かけれないですよ，だからね黙って抱きしめましたね，彼を。思いっきり。辛かったねって。それで次の年ですね，こういうお祭りをね，前と同じくらい堂々とやっておりましたね。この浜通りの漁師の方がね，根性のあることと信仰深さと，こんなのに負けてられるかっていうですね，そういう気持ちがね我々山育ちの者には到底かなわないですね。しかし，中にはですけど。ちょうど１年後，次の年の11日，津波でですね，行ったんです。どういう状況か。家族で花を買ってきました。それちょうど家があったとこですね，花も供えたとこですけど。男の方が二十歳そこそこだったんですけど，こういきなり泣き出しました。おそらく悔しさと憎しみがあったんでしょうね。それから手を合わせて帰りましたがね。本当涙出ました。

今こういう状況で，仮設で今なお住んでいます，磯辺ですね。この辺も磯部です，有名な松川浦になったんです。ここで1218人中おいでになって２割，243人亡くなっています。津波はこちら駅前の集落は全部ね，こちら西の方にね，押し流されたんです。で，こちらの方の流されて助かった方の２階にですね，津波に運ばれた亡骸が，１体，２体，多い時で４，５体。２階に流れ着いておりましたね。落ち着いてから２階に上がって，愕然とした方が何人もいらっしゃいました。

で，どうなったかというとですね，こうです。全部ここにうちがあったんですよ。一軒もありません。残ったのは携帯電話の電話塔だけです。瓦礫がまだ目の前にあります。これがね，４年前。12年に一度大祭をやるんです。もう芸能の大変豊富なところでね，それで子供たちもやっております。これがね，30種類ぐらい踊りがあるんです。こんなに沢山あるところは全国でも珍しいねって，非常にお気に入りでございました。この当時小学生，幼稚園から小学生までやるんですが，この子供たちが次から，中学生になりまして。中学生の数人なくなっております。聞くとね，この中にも亡くなった子供がいるらしいというお話を伺いましてね。この写真見ると辛いんですけども。こういう子どもたちが多い。ですから，この幼稚園から大人まで参加してました。この磯部という所はですね，お墓ありましてね。３月２日です。彼岸には早いでしょ，お盆にはまだまだでしょ。こんなに花があったんです。全部ではありませんけど，だいぶ生花が多かったですね。そしてこの，墓碑見ましたらね，愕然としました。見て下さい。震災の前の年，22年の３月に，いや２月に，ですね，ほぼ一年前に，おじいちゃん亡くなってます。その時，３月11日におばあさん78歳，それから旦那さんと奥さん48歳，46歳それからこれはね，娘さん17歳，息子さん15歳。だから，おじいちゃん，おばあちゃん，両親，子供。誰残ったんだろうって思って不思議なんですね。この人達の親族がいる所は分かったんです。だけど，とっても訪ねる気力が私ありません。こうなるとね，気の毒だとか悲惨という言葉の域を超えてね，残酷という言葉ほかないですね。これ，珍しくないんです。ここの部分もそうです，見て下さい。23年３月11日，お父さん，お母さん，それから息子それから娘です。親子４人とも亡くなっております。で，子供の名前ちょっと見ておいて下さいませんか。この磯部町は，高台に小学校あるんです。ここにいれば助かったんです。ところが，迎えに来て，家に帰った子供が全部亡くなりました。亡くなった子供がね，小学校だけで11人いるもんですから。供養の慰霊の碑をね，玄関の前に建てました。幼稚園がすぐ近くにあります。園児１名亡くなりました。児童，小学生ですね。11名と言いながら，名前が10人きりなんです。しかも，１行空いているんです。どうしたのって，聞いてみましたらね。この子供の，亡骸も見つかってお葬式も済んだんです。しかし，これ両親が我が子が亡くなったということを，どうしても受け入れられない。書かないで欲しいという，学校にお願いがあったもんですから，今なお空欄なんです。心の整理がついたらいつでも，と言っているらしいですけどまだ，そのままですね。ずいぶん経ちましたけど，まだそのままです。

子供を亡くしたという親の悲しみというのはね，これ本人でないと分かりません。どんな言葉もね，意味ありません。無意味って言ってもいいくらいですね。激励になんて，なるわけないです。経験してないと分からないです。で，私も高校２年の長男，がんで亡くしたもんですから。身をもって

体験していますからね。どういう辛い思いかというのも，よく分かるんですけど。そういうものなんです。これ磯部の所の鎮守様です。寄木稲荷神社。これ，震災前の４年前の写真です。ここ，どうなったか。鳥居もあります，石段もあります。家もあります。手前にびっしり家があります。

これです。この辺まで津波来たってことですね。この木がですね，かろうじて分かるんですよ。それとこれです。神社は高台ですから，ちょっと地震で被害はありましたけど。流れることはありませんでした。それでもね，次の年の４月。１年後ちゃんと祭りをやったんです。ちゃんとした着物はないものですから，トレパンとかはいてますけどね。ここに行くとお母様方，全員仮設から来ています。この方の一人が，ですね，後で詳しくお話しますけど。終わってから，みんなこの獅子に噛んでもらってね。もう本当，ホッとした顔してニコニコして帰りましたね。心癒されるんでしょうね。この子供，おばあちゃんに怖いから嫌だって泣いているんですよ。おばあちゃん，無理やり連れて行って並んでましたね。なんだって，震災の後で二度と会いたくないって気持ちなんでしょうね。その内の一人が，ですね，終わってからね，後で詳しくお話します。家も財産も無くなっちゃったんです。その上に，この獅子がなくなったら何が残るのって言ったんです。その意味は，後で話したいと思います。

これは鹿島地区です。この鹿島っていうのは芸能の宝庫です，ここは。もうたくさん色んな芸能があるとこですね。特にこの辺たくさんあるんですが。ここ，津波でこういう状況になったんです。このコンクリートの，防波堤ですね。一番底はね，３メートル以上あるんですよ，コンクリートが。それが津波で壊されちゃって，これ手前のほうには，全部家がありました。これすぐ下，ぎっちり，触れるくらいの位置から。全部流されちゃいました。誰見たって，ここに家があったなんて思いもよらない状況になりましたね。しかし，地元の方々は自分の家が無くなったのに，一番，最初に元あった神社を再建しました。大きい神社は作れませんから，本当に小さい神社ですが，ちゃんと鳥居も造って。地べたでは申し訳ないと土を掘りましてね。神社を作ったんです。心の拠り所にしてるんですね。これ，後ろにあるの，全部流された家の瓦礫です。こんなもんでないです。もっともっとあります。で，ここではですね，手踊りが３組ありました。非常にね，綺麗なね，一般の日本舞踊で見るような手ではなくて振りでなくて。極めて独特で，どうしてこんな振り思いつくんだろうっていうようなですね。珍しい振りを持った踊りもいくつかあります。子供たちがやるんです。保育所から小学校低学年です。で，これも，ですね，ちゃんと次の年の10月に復活しましてね。これ，公演しました。この子供たちの中にも身内を亡くした人が半数くらいいます。それでも復活したんですね。

それから，小高町にいきましょう。南相馬市にありましてね，ここも，ですね，震災の次の年，１年間入ることができませんでした。私もね，やきもきしながらみてたんですが，ここの所ですね，小高神社という神社があります。村上という所なんです。ここのことです。失礼しました。お城を作ろうとした高台で，海のすぐ傍です。ここに，ですね，神社が祀られていまして。貴布根神社っていうんですが。そこに，「田植踊」を継承してきたんですね。で，これは６年前の神社の写真なんですけれども，地震でこうなりました。完全に潰れました。

村上の田植踊　2005. 4. 23
73戸中，70戸が壊滅。住民約270人のうち62名が津波で亡くなる。保存会員は39名中，12名が犠牲になる。2012. 10 再興

村上の田植踊 震災後神社で初公開　2014. 11. 15
2015. 3 福島県重要無形民俗文化財に指定

時間がないので，次行きます。本当申しわけございません。で，その村上という地区はですね，73戸あったんですがその内のですね，70戸が津波

で流されましてね。辛うじて残ったのが，３戸です。で，その他のは全部撤去となりました。で，さっきの写真ですね。あれ，家らしき家が残っているんですよ。実はね，海岸の方に，百数10メートル先に，ですね，家があったんです，２階建ての家だったんですね。津波で一回，ポーンと達磨落としみたいに流されましてね。それで，２階だった部分が津波で流されて，あそこに辿りついたんです。それでね，中見ましたらね，タンスから，本箱からそのままになっておりました。で，今はね撤去して無くなったそうですね。保存会の方のね，お宅が。この家そうですね。川の上にこんな家造るはずないでしょ。そういうことで，後ろ見て下さい。形は成してますけど，２階まで。ほとんど流されて何にもありません。この方ですね，震災の６年前の写真なんですけども。震災の時に，全部で保存会員がですね，39名おられて。その内の12名が，保存会の会員ですよ，３分の１亡くなっています。ほとんどの方がですね，何らかの形で，旦那さんとか，あるいは奥さんとか，あるいは子供，あるいはおじさん，おばさん，それから祖父母亡くしてます。３分の２ぐらいはご家族，身内亡くしてます。そういう状況なんですが，翌年の秋にちゃんと復活いたしました。この着物はですね，文化庁の方に縫っていていただいて。もう，これだけ犠牲を出してですね，これを復活されたのは意気込みです。それだけではありません。もう，地元にはいられませんから，全部避難です。それでもですね，この芸能は無くしたくないということで，誓いましてね。それで，頑張ってくださったもんですから。今年の３月に，ですね，県の重要無形民俗文化材に指定させてもらいました。おそらく福島県の震災後ですよ，被災地の芸能で指定したというのは，これが初めてですね。地元にはいなくても，だいぶ決断したんですが。どうしても無くしたくないって思いが感じられたものですから。で，この神社の本殿だけは何とか残ったんですね。

この原町区ですね，ここのこのちょっとした色ついているところは津波でですね，ほぼ壊滅した所なんですが。この辺にですね，萱浜という所があります。特に北側の北萱浜，萱浜（かやはま）と書いて萱浜（かいはま）と呼んでいるんですが，ここに稲荷神社がありましてね。新しくなってますね。これ津波で壊れています。ここの神社がある為に後ろの木がですね，流されないで助かったんです。こちらの方はですね，最初これありませんでした。履歴ありませんでしたが。津波が全部向こうまで押し流したんですけども。突き抜けまして，木が全部倒されまして向こうまで押し流されて無くなりました。後ろにですね，押し流された53名の方の名前が書いてあるんですが，ここの所に小西さんという方が３人いらっしゃいます。この方はおじいちゃんです。この２人は孫です。おじいちゃんが，学校まで迎えに来てくれたんですね。それで，家に帰って津波に合いました。ここの学校，大甕（おおみか）小学校っていうんですけど。高台にあるから，学校にいれば助かったんです。しかし，身内が迎えに来てくれたら学校の方では，帰さないわけにはいかないですよね。それで，帰っていきました。そういう例が少なからずありますね。それにも関わらず，３年間かかりましたけどね。３月に，ここで獅子をですね，「天狗舞」と言いますけどね。福島県では，たいへん珍しい。北陸の方に大変似たものがありますから。これ，天明の飢饉の後1800戸くらい相馬地区に帰って，移民して北陸から，新潟から，島根県から，鳥取県もあります。それで，ここの地区にもですね，北陸の移民が非常に多いんですよ。ここの頭をやっている方が，先ほどの二人の子供が亡くなったお父さんです。３年ぐらいたってかな。それでもちゃんとやってくれています。ちなみにこれ，消防署の方はですね獅子が赤で，消防車は赤ですから，写真を撮る上では素人くさくなっちゃったもんですから，どうしようかって。全部消防団です。

それから小高区，ここに，「野馬追」があったんですが。野馬駆け追いですね，神社に持って行って野馬を素手で捕まえるものです。神社に奉納するんです。ここはですね，１年間入られませんでした。従って，向こう側でやったんです，神社がある地区なんですね。この境界線から90メートル手前のところにあるんです，多珂神社っていうんですが。ここの境内だけ借りて，形だけやりました。それで，毎年参加した所の息子さんがですね，親子で参加していたんですが津波で亡くなったんです。遺影を抱いて参加しましてね。それであの皆さんがですね，慰霊のですね法螺貝を吹いて供養してくれましたね。それで，相馬のお殿様です。この方も来てくださって，お参りしてくれたんですが。この方も，相馬市内にきのこの工場を持っていたんです。風評被害のおかげでですね，ぱったり売れなくなりました。失礼ですが，倒産しました。馬を形だけですけど奉納する形で，山を歩いたということをしたんですね。これがね，７月25日ですよ。３月11日に被災しました。４か月半後にやってくるんです。この意気込みがすごいですね。

それから浪江町，請戸っていう所がありましてね。こういう神社がありましてね，古い神社なんですよ，式内社で。小学生で，これは本当は青年男でした。それが，だんだん18前後の娘になって。今は小学校高学年ぐらいになっていますけど。立派な神社になっていますけども，木がたくさん見

えますね。これちょっと記憶しておいてください。木は一本も無くなりました。あった社殿も流されて礎石だけが残っているだけです。それでこの神

請　戸　2012. 3. 20

社の宮司さんが，あっこれは宮司さんじゃない。この宮司さんと奥さんと，娘さん夫婦と４人亡くなりました。これ，小学校写っている写真。見るとこ，何でもないように見えますけどね。海のすぐ傍なんです，ここ。100メートルちょっと来て離れていますよね。遠くから見ると，被害何でもなかったようなんですけど行ってみるとこうです。完全に，全校舎津波で流されて，なかなかです。メタメタになっていますね。ただ，子供たちですね。先生方が地震の直後でそら危ないっていうことで，すぐですね，まとめてね。もう，履き替える暇もないぐらいで，ちょっとね，２キロまでないですね，１キロちょっとぐらいの高台まで逃げたんです。一人も犠牲者出さないで済んだんですよ。そこに乗っかって，津波が見えたところですね。もしかするとここに来るかもしれないということで，最初から奥に逃がしたんですね。道路行くとね，止まりなんです。山の中，ガサガサガサと通ってね。高いとこ逃げたんですね。一人も亡くならせずに済んだ。先生方の判断は立派ですね。この方が，佐々木繁子さんと言うんですが，翌年ようやくですね。解除になったもんですので，私も同行してね。この方の自宅です，これ。自宅跡何にもありません，ここ。これは何かというとね，100メートル離れたところのトイレです。これ，ちょっとした重機じゃ持ち上がんないと思いますね，これ。そこに流れ着いたんです。津波の力がどれほど大きいか，よく分かりますね。そして，４か月後ですよ。７月３日に練習が始まったんです。これほど犠牲を出してね，それで家も何にもない。全員じゃありませんよ，これ平日ですからね。完全じゃないですよ。確かに，３月の24日でしたかな，お祭りやったんです。２週間ぐらい後ですから，覚えている子どもは沢山もちろんいたんですけど。バラバラですから集まれなくて，後ろの方なんて二十歳過ぎの元小学生です。中学生ももちろんいました。これで力を合わせてですね，これをやったんですが。一番感動的だったのはね，休憩しますね。その時に数人の子供が集まって，ここでですね。笑い声が出たんですね。子供っていうのは，同級生，友達が一番良いんですね。この当時。笑い声がでてニコニコして話しかけましたでしょ，県内も避難者半分ぐらいいましたから。お父さん，お母さん，まぁお母さんが一番多かったんですけど。引率してきてくれたんです，ここまで。お母さん，降ろすなり涙流してましたね多くの方が。震災後，初めて良かったのはね，笑顔，笑い声を聞いたんです。これは，来てよかった。これから何回も練習しましたけど。全部自費です。子供が行くって言えば，ダメだって親言えないです。で，８月の20日でしたね。いわきの水族館でね，これは福島県でもっとも早い復興ですね。そのおかげでですね，現在40回近くあちらこちらの方にお招きいただきまして。公開しています。遠いところではね，出雲大社。明治神宮でも，２回ほど招かれました。国立劇場，青年館，色んなところで披露しましてね。一躍有名になったのですが。これまた師匠です。奥さんです。この方は，震災の３年前に旦那さんを亡くしているんですね。一番つらいときだった

請戸の田植踊練習の合間　2011. 7. 3

請戸の田植踊再興　2011. 8. 20

んですがね。しかし，この震災で私が止めたらね，この踊りがなくなってしまう，子どもたちが可哀想だということで頑張られたんですね。その意気込みは立派なんです。因みに，余計なこと言うんですけど。着物はですね，呉服屋に飛び込んで買ったんです。買ったと言っても，その当時は，全然お金がありませんでした。いつ払えるか分からないけれども，今度いわきでやるようになったんで，何とかして売ってくれませんかって，頼む方も頼む方ですけど，売る方も売る方ですね。分かりましたって，言って売ってくれたんです。この着物。日本人ならではのことですね。半年過ぎてからですよ，このお金払ったのはようやく。因みに傘は売っていないんです。それで竹で持ってこの骨を作るんですが，これ私作りました。３日ぐらいかかりました，14個全部作りました。それでね，皆さんの力でできたんですね。

いわきです。ここですね，豊間っていうとこあるんですが，2000人住んでらっしゃいまして，94人亡くなりました。約600戸はほぼ壊滅です。この津波はですね，右の方から南から来たんですね。南の方から来ましたから，この出っ張った北の方はあんま被害ないです。この南の方は大きな被害で，豊間はほぼ壊滅です。で，ここに海水浴場があるんです。見張り台がここにあるんですね。これ頂いた写真です。これ３枚ですね頂いた写真お見せしますけど。３枚の内の１枚です。３月11日15時39分，津波の第一波です。「えびすや」さんという民宿を営んでいるご主人が屋上から撮った写真をくる写真をいただきました。今の監視台はこの辺にあるんです。あの高さは低くなりましたがね。７メートル弱でした。それが全然見なくなったということで，いかに津波が高かったことが分かりますね。ちなみにこれが，あの民宿，「えびすや」さんですね，津波に襲われたとこ全部解体して何にもありません。それで，ここの神社がですね。ここの神社まで逃げた方は助かったんです。しかし，上がんなかった方，この辺にいた方は，皆さん流されて亡くなりました。この神社からですね，これは震災後の９月なんですけど。今の上から撮った写真です。奥の方が，海です。全部家が壊されて，神社の石段の所に押し寄せられたんですね。これも頂いた写真ですが。この家は傾いたんですが，残しまして今直しまして，住んでいらっしゃいますが。このお宅は全部無くなりました。現在はこんな状況なんです。一時期テントがありました。ここ，大きな堤防を作っていますのでね。家が建ちません。ここではですね，こんな大がかりなお祭りをやっていたんです。６年前の写真ですね。多くの方が来まして，海岸にですね。それで，神輿をですね，この波の先の方まで見えなくなるまで，奥まで神輿を持ってくるんですよ。担いでですね。で，沖まで行けばいくほど，波にさらわれる恐れがあるもんですから，これ，ロープ見えますか。これ。ビニールロープをですね，三本かけましてね。陸の方に数10メートル引っ張っていくんです。流されたら，戻ってこれるようにですね。それぐらい粗い仕事でありますが。これ，海友会，昔は青年会って言ってたんですが。この中にも３人亡くなってます。それから海友会の会長，写真頂いたのもこの方からいただいたんですが。この方の，身内も３人亡くなっています。それでもやられたんですね。これ，３月震災ですからね。５月にですね。４年前ですよ。やめるわけにはいかないって言ってですね。簡略化ですけど，お祭りをやられたんです，ここで。それで塩水を汲んできて，おそらく行事なんですが，ちゃんと桶を持ってきてですね。それで次の年はですね，それ以前と同じようにきちっとやりました。ただ，このハッピ着てるのは富山の方なんですが。何もかもなくなりましたんで，財団からですね，これ援助を頂いて作りましてね。もうこの翌年は，前と同じようにやりました。ただね残念ながら，海にはね，砂浜には入れないもんですから。道路を整えて，ここで再出発したんですが。一通りは全部やりました。

それで震災後ですね，新たな動きが出てきたんですね。これちょっと，注意したいと思いますが，一つはですね，これ写真をお目にかけますけども，継承者のね年齢の幅を広げたんです。昔は，全部が決まっておりました。15歳から25まで。それ言ってられませんから，年齢を広げました。それからね，後継者をね，その芸能が継承された集落だけではなくて，他地区からも招いて行いました。それから，男だけだったのにも関わらず女性も参加するようになりました。それから，被災している方はですね，自分の所に行けませんから。ただ旅芸人の呼びかけだけでは，何か心のね，隙間風が吹いてくるんですね。ということで，演じるところにですね郷里の，故郷の，神社の祭神を招いてですね，それでやりました。それからそれも出来ない場合は，避難先のね，同じ名前の神社に奉納してます。それからもう一つあるんですね，当番の地域があるんですね。４地区が一年交代で，受け持つという所がありますね。もう４基持たなくなるもんですから，合併して３基にするということもできました。もっとも驚いたのはですね，避難した方がね避難先の芸能に参加するようになったんです。これは面白かったですね。それから，学校は大体統合しましたんで。統合した学校でね，その地区がやってたもんじゃない。もっと広い範囲でやった芸能を取り入れるべきだ。それから，私の方ですね。これはあの民俗芸能学会の福島調査団，その調査団を中心に記録保存していました。万が一

無くなった時の為にですね。具体例をあげたいと思います。請戸の「田植踊」,これ全部小学生です,

統合した学校で継承～飯舘中学校　2014. 11

ここ。一人だけ丁度この子あけてくれたんですね。頼んだわけじゃないんですけど。この方，見て下さい。腰が全部下がってますね。立派なもんでしょ。ちょっと見て下さい，小学生。これ知ってる方はですね，そっちが気になりますけどね。小学生と比べて足がこのように太いんですよ。気が付きませんか。この方はなんと，57歳です。これ小学生です。しかし，観客，お客さん，誰も気が付きませんでした。終わってからね,「あそこに一人だけおばちゃんいるんだけど分かった？」「ええ？」っていう感じでした。こういうね，正式な同じ着物着てですね，同じ服装をして。ただ，ももひきだけはね，小学生のは入らなかったものだから，自分で買ったそうですけどね。しかし，頬かぶりしてですね，たすきをつぐとね，もう57歳が10歳ぐらいに負けないぐらいにですね。こういう例もありました。それからこれです。これ元々はね，７，８人でやっていたんですね，人数少なくてですね。小学校,36人小学校におりました。今,一人もいません，休校です。それでずっとこれまで男の子でした。でも男の子だけでなく，女の子を参加させたんですね。ところがですよ，女の子は小学生では体大きいです男の子よりも。元気いいですね。だったら女の子にですね，この三人いる内１人が雌獅子で,２人が雄獅子なんですね。で,女の子にですね，雄獅子をやらせて男の子に雌獅子をやらせるのがちょうどバランス良くなったんですね。バランス取ってますね。それで，先ほどもありましたんですが，これ仮設住宅でね，演じました。そうしたらね，これ率直にお話しますけれども，っていうのはですね，批判する方がいらしたんですね。それで祭壇を設けて,ここにですね,地元のもうこれね，何キロあります？　200キロぐらい離れていますか，160キロ離れてます。少なくとも。こっから。そこの,故郷の神社を招いて。日本の神様っていうのは大変便利なんです。置物を立てて,神職が祝詞を上げるとですね,何十キロ,何100キロ離れても，ちゃんと飛んできてくれるんですね。で，神様を呼んで，みなさんお参りしてもらって行きました。それから，これはですね。原発のある大熊町，熊川という所なんですが，ここに入れません，今は。特に，子供，小学生ですよ。小学生ですからね。小学生も，入れないんです。そこで，同じですね，あの神社名でやってると。それから，これはですね。組を，４組あったものを３組に直してやっています。それでやっていますね。それから，この子供です。浜通りの被災地の子供なんですよ。この中通りのですね，福島市の北に伊達市ってあるんですが。そこの梁川という所に避難してきたんですね。そこに獅子があったもんですから，その方はね，この子供は小学生です。ここに参加させてもらって，道化役をやってます。これ，ひょっとこ面ですね。それで,ちょっと下に顔が見えるんです。普通はね，こんな小さなものなんですよ。ところがね，何回かこれやったらですね，もう喜ばれてね，ご祝儀を沢山もらって,入りきらなくなったんで,大きいハッカもかけていました。この時もね,千円札ですけど,物凄くいっぱいはいってました。これもあんまり言いたくないんですけど，３万ぐらい入っていましたね。私も千円差し上げましたけどね。終わってからね，どうすんのって聞いてからね，皆で分けますとか言ってましたけどね。また上手いんですよ，この道化役。この道化っていうのは，習ったり，教えてもらったりしてできるもんじゃないですね。持って生まれた素質みたいなのがあるんですよ，この道化役っていうのは。さっき言ったんですが，あんた将来ここの子供会長になるよとそう言ったんですけどね。

これ，統合した小学校でやりました。男の子，黒紋付きましてね。女の子はですね，これ，訪問着です。文化庁からまた，いただいたんですね。ただ学校では買うこと出来ないので，保存会で買ってですね，一時学校に貸し出すという形をとりました。小学校，中学校の１年生ですよ，毎周授業，一時間時間取って頂いて，練習やっています。これもね学校の協力なきゃだめですね。しかも，１年生だってバカにできませんね，今の子供体大きいから，もうお化粧して口紅つけるとね,その辺の嫁入り前の娘みたいな姿になるんですね。もう一つ，記録保存です。これね，わざわざ普段着でやってるんです。何故かというと，正式な着物を着ますとね，腕がどれだけ曲がるか，足がどれだけ曲げるか分からないんです。それを分かるためにですね，正式な服装の映像と普段着を両方取っています。ここにカメラあるんですけど，何撮っているかというと，この笛の方をですね後ろから撮っているんです。そしてこの踊ってる子の

脇にですね，笛を吹いている映像をはめ込むわけなんです。太鼓もいますね。太鼓の映像はこちらに入るんです。そうするとですね，笛を吹いている方の指使いでですね，自分のパートを覚えますから。こうすると非常に覚えやすい。これまた積極的にやっていまして，今年文化庁の補助で三カ所撮りました。でね来年はですね，五カ所が予定されてたんですけどね。

これこれもその踊りです。４人で踊っていますから，何がなんだか分からないですね。ごちゃごちゃになって。ゼッケンつけて，番号つけて。何もしなくても，すぐわかります。こういうやり方でね，今記録を撮ってます。ま，いつなくなったものでも，これを見れば復活できるということになっています。

これなんかの原動力は，なんだったのかということを見ていきたいと思いますね。一つは根強い信仰です。漁師の方の信仰というのはね，我々山育ちとは比べものにならないですね。津波は憎いけど海は憎くない。何百年，何千年と海に関わってきたから，たまにはしょうがない言ってました。思っても言えるもんではありません。これ言うんですね，口に出すんですね。その強さがあります。それからね，郷里への愛着と強固な連帯感ですね。漁師というのはとにかく絆が深いんです。自分一人では生きていけませんから。どんなに好漁でもね，難破したら役たないですからね。漁師というのは，そういう強さ，絆が深いですね。それから亡くなった方への感謝と慰霊です。先祖がね，ここまで守ってきてくれたんだから，絶対自分で無くすわけにはいかないって言ったですね，強い意気込みが感じられますね。

それからもう一つ，これなんです。祭りや芸能というのは，故郷そのものだということなんです。さっきの相馬の話，家や財産がすべてなくなって祭りまで，この祭りというのは神楽です。無くなったら何が残るんですかって，地域の方に訴えられました。最初は私何のことだか分からなかったんですけどね。喋っている内にね，家も無くなってこの神楽が唯一ですね，自分の故郷なんです。これが無くなったら，故郷との繋がりがなくなる。自分の居場所も無くなってしまう。まさにね，神楽そのものが故郷そのものなんですね。最後の精神的な拠り所が，神楽だということが分かりましてね。そういう力を持っているんですね。信仰も勿論あります。それは否定しませんけど。それ以上にという思いを強く感じましたね。絆を深めていく，集落のコミュニケーションを図ってですね。一つのコミュニティを作る，その核になっているのが祭りや芸能だったということを，つくづく感じさせられました。

それから指導者のですね，誇りと使命感ですね。これも大きな働きです。それは生きがいです。衣食住だけ満足しても，我々絶対生きていません。仮設住宅随分建てられました。普通は入れてくれないんですけどね。年の功で強引に入ってきましてね。随分率直にお茶飲みながら２時間，３時間ばかりいたことがあります。そうするとね，女の方はさすがしぶといですよ。男はダメですね。私医者じゃありませんけれども，もしかすると鬱病じゃないかと思う方が，随分いましたよ。生きがいがなくなってしまうと，男というのは生きていけないんです。家畜と違って，衣食住だけではいくらあってもだめなんですね。それを考えさせられましたね。

これはね，双葉町という，これもあの，原発のすぐ傍の。「宝財踊」，女性だけでやってるものなんですけど，「女宝財踊」といっているんですが。ここの踊りですね。この方がね，こういう事言ってました。これが生きる支えなんだと。この翌年の秋にですね，この踊りをやったんです，郡山で。この前にですね，出演をお願いした時からですね，ここで公開して，あとやめますって言ったんですよ。踊りをね。終わったらその足で，楽屋に行きましてね。ほんとにやめんの？って言ったらですね，本人らはもう帰っちゃったんですけど，会長がですね，ちょっと待ってよって，ここで辞めてしまったらね，私たちは二度と会えなくなるねって。半数は県外でした。それからね，これ雨降ったんですけど，非常に喜んでもらえたんです，観客に。そんなに喜んでもらえるんじゃ，私達も頑張らなきゃって二つの理由でですね，継続することになって。そういうね，生きがいと支えがですね，それがこの芸能を継続させているんですね。今年の，ついこないだも南相馬でやって頂きました。そういうね，生きがいと支え，ですね，それがこの芸能を継続させたんですね。で，そういうふうに生きる支えになるということです。だからこの，請戸の「田植踊」の佐々木さんという師匠はですね，この「田植踊」があるから生き長らえたんだと私は思っていますね。東京の江東区の，23階のね国家公務員のアパートにおりましたからね，尋ねました，私。目も揺らぐような高さです。こっから落ちたら，なんぼ気が楽になるだろうと言ってました。それをね，引きとめたってのは，この「田植踊」があったからなんですね。しかもね，この，師匠だけではありません。踊ってた中学生の子供たちもね，こういうことを言ってくれたんです。今では「田植踊」がね，自分の故郷で自分を結びつける唯一の物なんです。これも大きな支えになっているって言ってくれました。生きる支えになる，これは文化庁その他の補助金ですね。これもね私聞いて涙出たんですが，浪江町の子供がですね，新地町の海岸沿いに招かれた時なんです

浪江町請戸の子どもたち　2014. 12. 23

が，二本松に役場あるんです。そこに集まりました。２，３人，あっちに着くのが遅れたんです。その遅れたのを待っている間にですね，この子供たちがですね，靴で文字を書いたんです。何て書いたか，ごんべんに青です。これ請戸の請です。これ，戸，ドアの戸です。請戸っていう地名を書いたんですね。じっとしてそれ見てました。こういうですね，４年も離れてもこの子供たちから，故郷請戸という地区を忘れられない。逆に言うと心の支えになっているんですね。

そして，今後の課題ですね。民俗芸能というのはね，ずっと離れて継続できるかどうかなんです。民俗研究者ってね，故郷に戻らなくったって芸能は大丈夫ですよって言っている方がいらっしゃる。私はそれね，納得出来ません。こういう事なんです。イベントに出演している団体に対してですね。具体的に，さっきの請戸の「田植踊」です。その時ですね，地元の方にですよ。もうあの芸能は自分たちのじゃない。故郷でやんないで，他の場所のをやるなんて，旅芸人と同じじゃないかって意見を言った方がたまたま耳にしたんですよ。私，愕然としましたけどね。これはね，何10回も出てますから，かなり謝金をいただいているんじゃないかと勘違いしたんですね。出たってね，せいぜい１万円か３万円くらいですよ。25人ぐらい入ってるんですから。一人，2000円にもならないですよ，謝金が。交通費も出ないです。それでもね，大金をいただいているんじゃないかって勘違いしたんです。それで私，むかっとしましてね。どういうことやったかというと，民俗芸能というのはその土地で培われた歴史が，文化になるんでしょ。風俗習慣の一つでしょ。だからね，民俗という名前がついてますから，その地を離れてはね民俗芸能じゃなくなってしまうんです。舞台芸術ならどこでやったっていいです。価値変わりません。民俗芸能というのはね，やっぱりその土地でもってね，気候風土歴史，それが作用して芸能が今までの形を成してきたわけですから。それを離れては，存在は難しい。それで，早急に地元に帰ること，帰したいんですね。こういうことやりました。繰り返し言うと，次の年から仮設住宅でやりました。それで今より費用があったもんですから，祭壇を設けてですね，神職にお願いして祭事をやってもらったんです。そして皆さんお参りしたんですね。こういう事も繋ぎとしてね，故郷に帰る繋ぎとしてはやらなきゃなんないなと思いますね。

それで，改めて民俗芸能の意義は何かといいますとね。時間急ぎますけれども。それで，地域共同体を維持するための核だというんです，芸能というのは。もちろん信仰はついてきませんよ。当然です，これは。しかし，これはね，地域を維持するための核になっていたということです。今回ほどつくづく感じたことありませんね。皆さん，これほど素晴らしい芸能は他にない。我々に言わせると，そんなのどこにでもありますよって言いたくなるんですが。あ，そうですねって言っておしまいですけどね。それはこういうものなんです。しかしね，先祖代々の宝っていう認識はありますが，文化財でどうだこうだという認識はあまりありません。だから，地元にとっては必ずしもね，価値の高い芸能とは限らないんです。どこにでもある，芸能っていうのは。それが，彼らのですね，地域を守っていくものになるんですね。

双葉町がこんなになっているんですけど，これも芸能によって，繰り返し恐縮ですけれども，維持することができたんですね。しかしね，こっからちょっとふれますけども。被災者は，今も取り残されております。どうしてかって，こういうことを率直に言います。なかなか普通の人は言ってくれません。催しもの，たくさんやって下さいましたね。芸能人来たって，偉い人が来たって。それはそれでありがたいというんですよ。だけれどもね，見てる内はいいんです，まだ。家に帰るとね，見に来るまえよりも辛い気持ちになるから，もう二度と行きませんっていう方が何人もいました。善意でもって来てくれるんですよ，都会からも。そして，必ず快く受け入れられてるばっかりじゃありませんね。もういいですと。辛いんですと。そういう複雑な心境ですね。それでは，どっかのテレビは絆，絆って言いますね。絆っていうのも，もういいですって。そんな簡単なものじゃないっていうんです。被災者の方としては。本当のね，この悲しみを分かってくれているのかと。そんな簡単に絆を取り戻せませんよと。それでね，催し，参加する気力もなにも失った方も随分いました。うちひしがれちゃってですね。それからこれ，阪神淡路大震災の宮島，NHKのテレビで言っていたことなんですが。家族を亡くした人には，復興っていうのはね絶対ありえません。これがね，我々忘れてるんですよ。身内亡くした人

にとってね，何人亡くなったんですか，どうだったんですかって。これ，全く愚問です。ほっといてくれと言われますね。身内亡くした方にとっては。その悲しみがね，第三者分かりません。被災者の死の悲しみとして見ていない，第三者は理解できないんです。どんなに辛いか理解できません，あの悲しみというのは。どんな言葉もね，激励もね，慰めにはなりませんよ。そんな簡単なものじゃないって思ってます。このような悲しみっていうのは，言葉じゃ表せません。安易な慰めとか，受け入れってのは止めて下さい。かえって関係ない話をすることが，被災者にとって一番ありがたいと思います。そういうのが，なかなか分からない。第三者にはですね。ですからどうすればいいのか。借り物の芸能ではなくてね，その土地の芸能をね，やっていただくのが，一番良いんじゃないかと思いますね。これみてください。双葉町，いわき，かなりの方が全村全町避難です。盆踊りをやりました。盆踊り，ここにですね，祭壇を設けているんですよ。盆踊りに祭壇設けているのなんて，ないでしょ。お参りしてね，それで皆さん踊ってたんです。この男の子，勿論被災者です。勢いよく一生懸命やってたの，分かるでしょ。凄く元気になりましたね。それでこの子は，踊っている間は，しばらく被災者という事は忘れていたでしょうな。

請戸の田植踊仮設住宅慰問　2014. 3. 9

そういう救いしか，我々できないですね。この顔見て下さい。これ，20歳過ぎの元小学生です。これ，正真正銘の小学生です。これ，きょうだいです。この笑顔を見て下さい。全部，被災者ですよ。しかも，良い顔してますね。ここで，芸能を演じて満足した顔をしてますね。こういう顔になるということは，やはり芸能の持っている力だと私思いますね。

それでね，ちょっと一言だけ付け加えておきたいんですけど，ここからですね，ハッキリ言いますけど，民俗芸能学会でこれをお話しました。これをそっくりやるんじゃなくて，こういう風にしたいと言ったらある研究者は，こっから後はいらないってですね，言われました。この前までが，研究者のやることで，こっからですね，こっからは研究者のやることじゃないんだよと。私たちは，研究の為だけにやっているんじゃないんですよ。最終的には，お返しするのが研究者の本当のするべきことだと思います。それがなってないんですよ，私達。だから，宗教団体と民俗芸能研究者はなにをやっているのか，そういう批判をうけるんですね。だから，何とかしてお返ししたい。どっかその辺をですね，みなさんも研究者でいらっしゃいますけど。たんなる地元から頂くばかりじゃなくて，何とかしてお返ししたいと思っておりますね。時間が，非常に申し訳ございません。これで終わらせて頂きます，ありがとうございました。